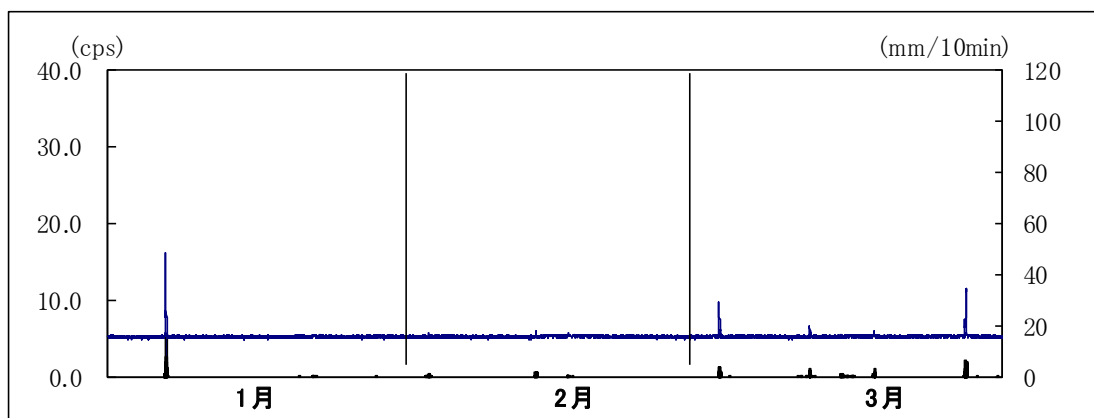
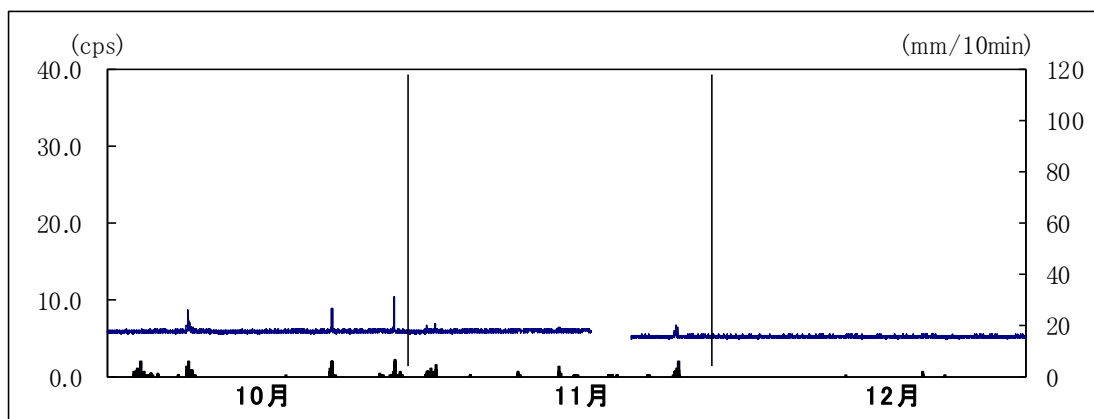
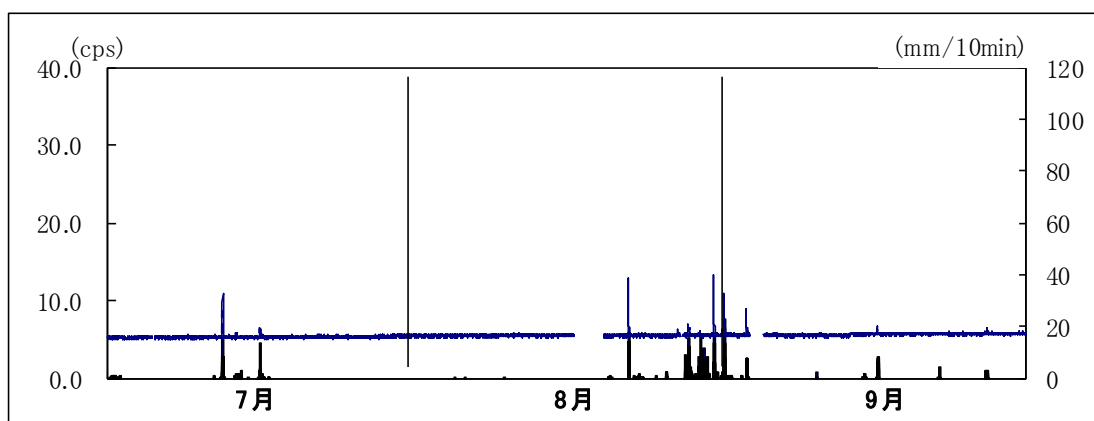
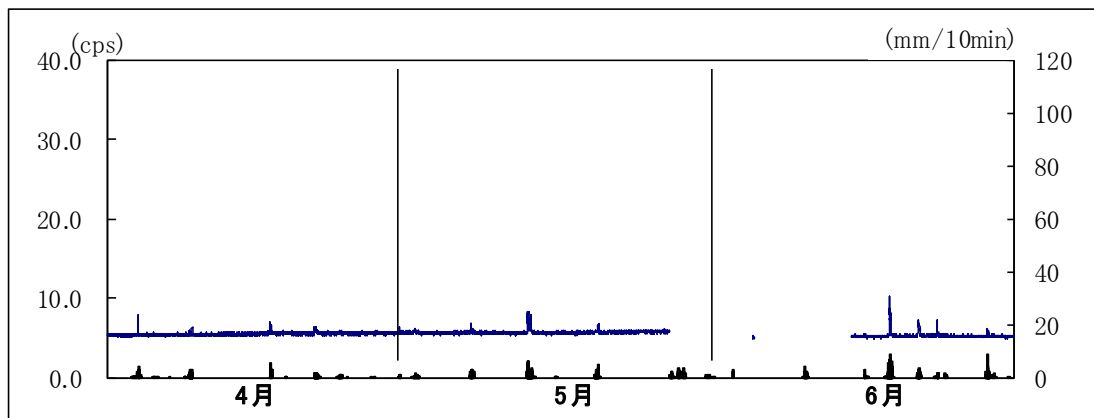


5号機放水口モニタ



※上線は全計数率, 下線は降雨量

(4) 補足参考測定

ア 積算線量

単位：mGy

測定地点名	測定値							
	令和6年3月13日～ 令和6年6月11日 (91日積算)		令和6年6月12日～ 令和6年9月10日 (91日積算)		令和6年9月11日～ 令和6年12月10日 (91日積算)		令和6年12月11日～ 令和7年3月26日 (106日積算)	
	県	中電	県	中電	県	中電	県	中電
芹 沢 (御前崎市)	0.14	0.15	0.14	0.15	0.14	0.15	0.17	0.17
西 山 (御前崎市)	0.15	0.15	0.14	0.15	0.14	0.15	0.17	0.17
上比木 (御前崎市)	0.15	0.16	0.15	0.16	0.15	0.16	0.18	0.18
合戸東前 (御前崎市)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.17	0.17
門屋石田 (御前崎市)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.17	0.17
中 尾 (御前崎市)	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.20	0.20
朝比奈原公民館 (御前崎市)	0.15	0.15	0.14	0.15	0.14	0.15	0.17	0.17
旧地頭方中学校 (牧之原市)	0.15	0.15	0.15	0.16	0.15	0.15	0.18	0.18
菅山保育園 (牧之原市)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.17	0.17
鬼女新田公民館 (牧之原市)	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.16	0.16
千浜小学校 (掛川市)	0.16	0.16	0.15	0.16	0.15	0.16	0.18	0.18
東小学校 (菊川市)	0.14	0.15	0.14	0.15	0.14	0.14	0.17	0.17

イ 環境試料中の放射能
(7) 機器分析 (γ線放出核種)
a 降下物

単位: Bq/m²

採取地点名	採取期間	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他 ¹⁾	⁷ Be ²⁾
御前崎市 池新田	R6年 4月 1日 ～R6年 4月 30日	県	* ³⁾ (0.049) ⁴⁾	*	*	*	130 (3.4)
		中電	*	*	*	*	148 (3.7)
	R6年 5月 1日 ～R6年 6月 2日	県	*	*	*	*	275 (4.9)
		中電	*	*	*	*	269 (4.5)
	R6年 6月 3日 ～R6年 6月 30日	県	*	*	*	*	114 (3.3)
		中電	*	*	*	*	141 (3.3)
	R6年 7月 1日 ～R6年 7月 31日	県	*	*	*	*	67.0 (2.5)
		中電	*	*	*	*	77.9 (2.5)
	R6年 8月 1日 ～R6年 9月 1日	県	*	*	*	*	248 (4.8)
		中電	*	*	*	*	246 (4.4)
	R6年 9月 2日 ～R6年 9月 30日	県	*	*	*	*	40.8 (1.9)
		中電	*	*	*	*	45.8 (2.0)
	R6年 10月 1日 ～R6年 10月 31日	県	*	*	*	*	97.2 (2.9)
		中電	*	*	*	*	102.5 (2.8)
	R6年 11月 1日 ～R6年 12月 1日	県	*	*	*	*	106 (3.1)
		中電	*	*	*	*	115.3 (2.8)
	R6年 12月 2日 ～R7年 1月 5日	県	*	*	*	*	15.3 (1.2)
		中電	*	*	*	*	14.0 (1.2)
	R7年 1月 6日 ～R7年 2月 2日	県	*	*	*	*	41.9 (1.9)
		中電	*	*	*	*	38.9 (2.0)
	R7年 2月 3日 ～R7年 3月 2日	県	*	*	*	*	28.3 (1.5)
		中電	*	*	*	*	28.6 (1.4)
	R7年 3月 3日 ～R7年 3月 31日	県	*	*	*	*	87.4 (2.6)
		中電	*	*	*	*	89.6 (2.6)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) ベリリウム 7 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

b 指標生物（松葉）

単位：Bq/kg 生

試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他 ¹⁾	⁴⁰ K ²⁾
松 葉	御前崎市 池新田	欠測 ³⁾	県	—	—	—	—	—	—
			中電	—	—	—	—	—	—
		R6 年 9 月 3 日 ⁴⁾	県	* ⁵⁾ (0.049) ⁶⁾	*	*	0.12 (0.036)	*	56.5 (2.3)
			中電	*	*	*	0.098 (0.041)	*	51.2 (2.0)
		欠測	県	—	—	—	—	—	—
			中電	—	—	—	—	—	—
		欠測	県	—	—	—	—	—	—
			中電	—	—	—	—	—	—
	御前崎市 平場前	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	*	0.054 (0.024)	*	48.7 (1.7)
			中電	*	*	*	0.043 (0.027)	*	48.3 (1.6)
		R6 年 9 月 3 日	県	*	*	*	0.055 (0.023)	*	68.6 (1.9)
			中電	*	*	*	0.045 (0.026)	*	69.3 (1.7)
		R6 年 12 月 3 日	県	*	*	*	0.048 (0.034)	*	64.7 (2.1)
			中電	*	*	*	0.059 (0.026)	*	57.4 (1.6)
		R7 年 3 月 11 日	県	*	*	*	0.025 (0.018)	*	70.6 (1.9)
			中電	*	*	*	0.029 (0.028)	*	69.4 (1.8)
	御前崎市 白 砂	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	*	0.044 (0.028)	*	57.9 (1.9)
			中電	*	*	*	0.045 (0.026)	*	55.8 (1.6)
		R6 年 9 月 3 日	県	*	*	*	0.022 (0.016)	*	64.6 (1.7)
			中電	*	*	*	* (0.027)	*	68.3 (1.8)
		R6 年 12 月 3 日	県	*	*	*	* (0.029)	*	78.3 (2.1)
			中電	*	*	*	0.030 (0.025)	*	71.6 (1.7)
		R7 年 3 月 11 日	県	*	*	*	0.054 (0.026)	*	80.4 (2.3)
			中電	*	*	*	0.041 (0.031)	*	76.6 (1.9)

注1) 「その他」は、コバルト 60、ヨウ素 131、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注3) 松の高木化により、令和4年度第2四半期以降の採取を休止している（浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第197号資料編7参照）。

注4) 採取再開に向け試行として測定法に定める供試量より少ない松葉を採取したため、参考値とする。

注5) 「*」は、「検出されず」を示す。

注6) () 内は、検出下限値を示す。

c 海 水

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他 ¹⁾
菊川河口	R6 年 6 月 6 日	県	* ²⁾ (2.9) ³⁾	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
高松沖	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	2.5	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
尾高漁場	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	2.6	*
		中電	*	*	*	*

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注3) () 内は、検出下限値を示す。

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾
中根礁	R6 年 6 月 6 日	県	* ²⁾ (3.0) ³⁾	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
御前崎港	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
浅根漁場	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	1.6 (1.6)	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注3) () 内は、検出下限値を示す。

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾
1, 2 号機 放水口付近	R6 年 6 月 6 日	県	* ²⁾ (3.0) ³⁾	*	*	*
		中電	*	*	3.3 (2.5)	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
取水口付近	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	2.8 (2.5)	*
		中電	*	*	*	*
3 号機及び 4 号機 放水口付近	R6 年 6 月 6 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R6 年 11 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R7 年 1 月 21 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	2.5 (2.4)	*

注 1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注 2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注 3) () 内は、検出下限値を示す。

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾
5号機放水口付近	R6年 6月 6日	県	* ²⁾ (3.0) ³⁾	* (3.1)	3.0 (2.9)	*
		中電	* (2.8)	* (3.1)	* (4.1)	*
	R6年 8月 2日	県	* (3.4)	* (2.8)	* (2.6)	*
		中電	* (2.6)	* (2.8)	3.4 (2.5)	*
	R6年 11月 8日	県	* (3.1)	* (3.1)	* (2.5)	*
		中電	* (2.6)	* (3.0)	* (2.6)	*
	R7年 1月 21日	県	* (2.8)	* (3.0)	* (2.3)	*
		中電	* (2.9)	* (3.1)	* (3.0)	*

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注3) () 内は、検出下限値を示す。

(イ) トリチウム分析

大気中水分

採取地点名	採取期間	測定値(Bq/L) (捕集水中トリチウム濃度)	測定値(Bq/m ³) (大気中トリチウム濃度)
御前崎市 白 砂	R6 年 4 月 1 日～R6 年 4 月 30 日	* ¹⁾ (0.35) ²⁾	* (0.0039)
	R6 年 5 月 1 日～R6 年 6 月 2 日	0.70 (0.35)	0.0092 (0.0047)
	R6 年 6 月 3 日～R6 年 6 月 30 日	0.50 (0.35)	0.0086 (0.0060)
	R6 年 7 月 1 日～R6 年 7 月 31 日	* (0.35)	* (0.0066)
	R6 年 8 月 1 日～R6 年 9 月 1 日	0.37 (0.35)	0.0071 (0.0068)
	R6 年 9 月 2 日～R6 年 9 月 30 日	0.39 (0.36)	0.0077 (0.0071)
	R6 年 10 月 1 日～R6 年 10 月 31 日	* (0.35)	* (0.0055)
	R6 年 11 月 1 日～R6 年 12 月 1 日	* (0.36)	* (0.0035)
	R6 年 12 月 2 日～R7 年 1 月 5 日	0.74 (0.36)	0.0023 (0.0011)
	R7 年 1 月 6 日～R7 年 2 月 2 日	* (0.34)	* (0.0015)
	R7 年 2 月 3 日～R7 年 3 月 2 日	0.85 (0.36)	0.0033 (0.0014)
	R7 年 3 月 3 日～R7 年 3 月 31 日	0.42 (0.35)	0.0026 (0.0021)
御前崎市 中 町	R6 年 4 月 1 日～R6 年 4 月 30 日	0.86 (0.46)	0.0064 (0.0034)
	R6 年 5 月 1 日～R6 年 6 月 2 日	0.64 (0.45)	0.0059 (0.0041)
	R6 年 6 月 3 日～R6 年 6 月 30 日	* (0.45)	* (0.0042)
	R6 年 7 月 1 日～R6 年 7 月 31 日	* (0.45)	* (0.0027)
	R6 年 8 月 1 日～R6 年 9 月 1 日	0.73 (0.45)	0.0073 (0.0045)
	R6 年 9 月 2 日～R6 年 9 月 30 日	* (0.45)	* (0.0042)
	R6 年 10 月 1 日～R6 年 10 月 31 日	0.68 (0.45)	0.0069 (0.0046)
	R6 年 11 月 1 日～R6 年 12 月 1 日	* (0.46)	* (0.0027)
	R6 年 12 月 2 日～R7 年 1 月 5 日	0.59 (0.47)	0.0019 (0.0015)
	R7 年 1 月 6 日～R7 年 2 月 2 日	* (0.48)	* (0.0019)
	R7 年 2 月 3 日～R7 年 3 月 2 日	0.60 (0.48)	0.0023 (0.0018)
	R7 年 3 月 3 日～R7 年 3 月 31 日	0.72 (0.33)	0.0034 (0.0022)

注 1) 「*」は、「検出されず」を示す。

注 2) () 内は、検出下限値を示す。

採取地点名	採取期間	測定値(Bq/L) (捕集水中トリチウム濃度)	測定値(Bq/m ³) (大気中トリチウム濃度)
御前崎市 平 場	R6 年 4 月 1 日～R6 年 4 月 30 日	0.41 (0.36) ¹⁾	0.0045 (0.0041)
	R6 年 5 月 1 日～R6 年 6 月 2 日	0.62 (0.35)	0.0081 (0.0046)
	R6 年 6 月 3 日～R6 年 6 月 30 日	* ²⁾ (0.35)	* (0.0058)
	R6 年 7 月 1 日～R6 年 7 月 31 日	* (0.35)	* (0.0074)
	R6 年 8 月 1 日～R6 年 9 月 1 日	* (0.38)	* (0.0086)
	R6 年 9 月 2 日～R6 年 9 月 30 日	* (0.35)	* (0.0078)
	R6 年 10 月 1 日～R6 年 10 月 31 日	* (0.35)	* (0.0054)
	R6 年 11 月 1 日～R6 年 12 月 1 日	* (0.35)	* (0.0036)
	R6 年 12 月 2 日～R7 年 1 月 5 日	0.71 (0.36)	0.0023 (0.0012)
	R7 年 1 月 6 日～R7 年 2 月 2 日	* (0.35)	* (0.0014)
	R7 年 2 月 3 日～R7 年 3 月 2 日	0.79 (0.36)	0.0031 (0.0014)
	R7 年 3 月 3 日～R7 年 3 月 31 日	0.50 (0.35)	0.0031 (0.0021)
御前崎市 上ノ原	R6 年 4 月 1 日～R6 年 4 月 30 日	0.60 (0.45)	0.0053 (0.0040)
	R6 年 5 月 1 日～R6 年 6 月 2 日	0.85 (0.45)	0.0089 (0.0047)
	R6 年 6 月 3 日～R6 年 6 月 30 日	* (0.45)	* (0.0057)
	R6 年 7 月 1 日～R6 年 7 月 31 日	* (0.45)	* (0.0057)
	R6 年 8 月 1 日～R6 年 9 月 1 日	0.78 (0.45)	0.0091 (0.0053)
	R6 年 9 月 2 日～R6 年 9 月 30 日	* (0.45)	* (0.0055)
	R6 年 10 月 1 日～R6 年 10 月 31 日	* (0.44)	* (0.0048)
	R6 年 11 月 1 日～R6 年 12 月 1 日	* (0.47)	* (0.0030)
	R6 年 12 月 2 日～R7 年 1 月 5 日	* (0.46)	* (0.0019)
	R7 年 1 月 6 日～R7 年 2 月 2 日	* (0.49)	* (0.0020)
	R7 年 2 月 3 日～R7 年 3 月 2 日	0.67 (0.48)	0.0026 (0.0019)
	R7 年 3 月 3 日～R7 年 3 月 31 日	0.62 (0.47)	0.0033 (0.0025)

注 1) () 内は、検出下限値を示す。

注 2) 「*」は、「検出されず」を示す。

(5) バックグラウンド測定
ア 機器分析（ γ 線放出核種）

(7) 土 壤

単位：Bq/kg 乾土

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾	^{40}K ²⁾
菊川市 小笠南	R6 年 7 月 24 日	県	* ³⁾ (0.84) ⁴⁾	* (0.71)	4.5 (0.92)	*	580 (32)
		中電	* (0.79)	* (0.76)	4.8 (1.0)	*	610 (31)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

(イ) 玄 米

単位：Bq/kg 生

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾	^{40}K ²⁾
菊川市 小笠南	R6 年 10 月 23 日	県	* ³⁾ (0.049) ⁴⁾	* (0.044)	* (0.039)	*	71.0 (2.4)
		中電	* (0.053)	* (0.044)	* (0.042)	*	73.4 (2.5)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

イ 放射性ストロンチウム分析（ストロンチウム 90）

土 壤

単位：Bq/kg 乾土

採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
菊川市 小笠南	R6 年 7 月 24 日	県	* ¹⁾ (0.12) ²⁾
		中電	* (0.21)

注1) 「*」は、「検出されず」を示す。

注2) () 内は、検出下限値を示す。

ウ トリチウム分析

(7) 上 水

単位：Bq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
御前崎市 市役所 (大井川広域水道)	R6 年 7 月 3 日	県	0.67 (0.36) ¹⁾⁻
		中電	0.74 (0.45)
御前崎市 新神子 (県営榛南水道及び 大井川広域水道混合水)	R6 年 7 月 3 日	県	0.58 (0.36)
		中電	0.74 (0.45)

注1) () 内は、検出下限値を示す。

(イ) 海 水

単位：Bq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
3 号機及び 4 号機 放水口付近	R6 年 8 月 2 日	県	* ¹⁾ (0.35) ²⁾⁻
		中電	0.55 (0.44)
5 号機放水口付近	R6 年 8 月 2 日	県	* (0.34)
		中電	0.44 (0.43)

注1) 「*」は、「検出されず」を示す。

注2) () 内は、検出下限値を示す。

エ プルトニウム分析（プルトニウム 238、プルトニウム 239+240）

土 壤

単位：Bq/kg 乾土

採取地点名	採取年月日	核種	測定機関	測定値
菊川市 小笠南	R6 年 7 月 24 日	Pu-238	県	* ¹⁾ (0.0064) ²⁾
			中電	* (0.0043)
		Pu-239+240	県	0.032 (0.019)
			中電	0.024 (0.016)

注1) 「*」は、「検出されず」を示す。

注2) () 内は、検出下限値を示す。

付表 測定器の種類

測定項目		測定機関	測 定 器	直近点検年月		
空間放射線量	線量率	県	NaI (Tl) 型空間ガンマ線測定装置 ：日立アロカメディカル(株)製 エネルギー特性補償型 (6 局) ：日本レイテック(株)製 エネルギー特性補償型 (2 局)	R6 年 12 月		
		中電	NaI (Tl) 型空間ガンマ線測定装置 ：日本レイテック(株)製 エネルギー特性補償型	R6 年 11～12 月		
	積算線量	県	蛍光ガラス線量計素子：AGC テクノグラス(株)製 SC-1 蛍光ガラス線量計読取装置：AGC テクノグラス(株)製 FGD251	R6 年 8 月		
		中電	蛍光ガラス線量計素子：AGC テクノグラス(株)製 SC-1 蛍光ガラス線量計読取装置：AGC テクノグラス(株)製 FGD-201	R7 年 2 月		
環境試料中の放射能	全α放射能・ 全β放射能		県	ZnS (Ag) + プラスチックシンチレータ型アルファ線・ベータ線 同時測定装置：応用光研工業(株)製 S-2868SIZ	R7 年 2 月	
			中電	ZnS (Ag) + プラスチックシンチレータ型アルファ線・ベータ線 同時測定装置：日立アロカメディカル(株)製 ADC-2121	R6 年 11～12 月	
	核種分析	γ線 放出核種	県	波高分析装置（検出器／波高分析器） ：キャンベラ製 GC4018／キャンベラ製 Lynx ：キャンベラ製 GC4018／キャンベラ製 Lynx II ：キャンベラ製 GC4018／キャンベラ製 Lynx ：キャンベラ製 GX4018／キャンベラ製 Lynx ：キャンベラ製 GC4018／キャンベラ製 Lynx II	R6 年 10 月 R6 年 12 月 R6 年 10 月 R6 年 10 月 R6 年 10 月	
			中電	波高分析装置（検出器／波高分析器） ：セイコーEG&G GEM-40-83／セイコーEG&G MCA-7a ：セイコーEG&G GEM-40-S／セイコーEG&G MCA-7a	R7 年 2 月	
		ストロンチウム 90	県	低バックグラウンドガスフロー測定装置 ：(株)日立製作所製 LBC-4611 ：キャンベラ製 LB4200（委託先設備）	R7 年 1 月 R7 年 4 月	
			中電	低バックグラウンドガスフロー測定装置 ：日立アロカメディカル(株)製 LBC-4302B	R6 年 12 月	
		トリチウム	県	低バックグラウンド液体シンチレーション測定装置 ：(株)日立製作所製 LSC-LB8	R7 年 1 月	
			中電	低バックグラウンド液体シンチレーション測定装置 ：日立アロカメディカル(株)製 LSC-LB5	R6 年 12 月	
		プルトニウム	県	シリコン半導体検出器 ：キャンベラ製 Alpha Anaiyst（委託先設備）	R7 年 4 月	
			中電	シリコン半導体検出器 ：ORTEC 製 BU-020-450-AS（委託先設備）	R5 年 7 月	
		排水の全計数率		中電	1, 2 号機放水口モニタ（検出器）：富士電機株式会社製 NDS3ABB2-AYYY-S	R7 年 1 月
					3 号機放水口モニタ（検出器）：東芝エネルギーシステムズ(株)製 HNB712	R4 年 9 月
					4 号機放水口モニタ（検出器）：東芝エネルギーシステムズ(株)製 HNB712	R5 年 2 月
					5 号機放水口モニタ（検出器）：東芝エネルギーシステムズ(株)製 HNB712	R5 年 9 月

2 平常の変動幅の上限逸脱に係る原因調査報告（空間放射線量率）

令和 6 年 6 月 25 日 8 時 50 分にモニタリングステーション中町局（以下、「中町 MS」という）で、空間放射線量率が平常の変動幅の上限を逸脱する事象が発生したため、その原因について調査した。調査の結果、中町 MS 付近の工事における X 線を用いた「非破壊検査」の影響であると推定した。

1 測定結果

表 1 に中町 MS の空間放射線量率を示す。当日は 54～55nGy/h 付近の値を推移した後、8 時 30 分頃から線量率が上昇し、8 時 50 分に平常の変動幅の 10 分間平均値が上限を逸脱した。その後、線量率は 160nGy/h 程度まで上昇し、9 時 30 分に上昇前の値に戻った。その後、10 時 30 分から 10 時 50 分にも平常の変動幅の 10 分間平均値が上限を逸脱した。

また、表 2 のとおり、1 時間平均値についても平常の変動幅の上限値を逸脱した。

表 1 中町 MS の空間放射線量率（10 分間平均値）

単位：nGy/h

測定地点	日時	測定最大値	平常の変動幅
中町	6 月 25 日 8 時 50 分～9 時 10 分、 10 時 30 分～10 時 50 分	164	50～88

表 2 中町 MS の空間放射線量率（1 時間平均値）

単位：nGy/h

測定地点	日時	測定最大値	平常の変動幅
中町	6 月 25 日 9 時、11 時	91	50～87

2 原因調査

（1）発電所の状況

当該日時において発電所内のエリアモニタリング設備等に異常は認められず、発電所外への放出管理も適切に行われており、発電所からの影響はない。

（2）現場の状況

現在、中町 MS 付近では御前崎市役所の研修センター及び西館において太陽光設備等設置工事が進められており、現場で、その工事の作業員へ聞き取りをしたところ、8 時 30 分頃より研修センターにて、非破壊検査を行っていることを確認した。2 箇所目の非破壊検査が行われる際に、現地で立ち会ったところ、図 1 に示す線量率の上昇時刻と X 線照射のタイミングが一致した。

なお、7月15日に西館で同様の作業が行われたため、現地で立ち会って確認したところ、線量率への影響は小さく、10分間平均値で1nGy/h程度の上昇であった。

中町MSと研修センター及び西館で行われた非破壊検査の位置を図2に示す。

(3) 測定系及びデータ伝送処理系の健全性

当該事象発生直後の現場確認において、測定機器に異常がないことを確認した。また、当該日時の現地の記録計と指示値とテレメータシステムで収集したデータとの間に相違がないことを確認した。

(4) 人工放射線による影響

非破壊検査の影響で線量率が上昇した時のスペクトルと平常時のスペクトルの結果を図3に示す。非破壊検査に用いられるX線発生装置の管電圧は最大200kVであり、発生するX線の最大エネルギーは200keV程度である。スペクトル解析の結果、200keVよりも低いエネルギーの放射線が確認されており、このことから、線量率上昇の原因はX線を用いた非破壊検査であると考えられる。

3 まとめ

調査の結果、中町MSにおいて空間放射線量率が平常の変動幅の上限を上回った原因は、中町MS付近の工事におけるX線を用いた非破壊検査の影響であると考えられる。

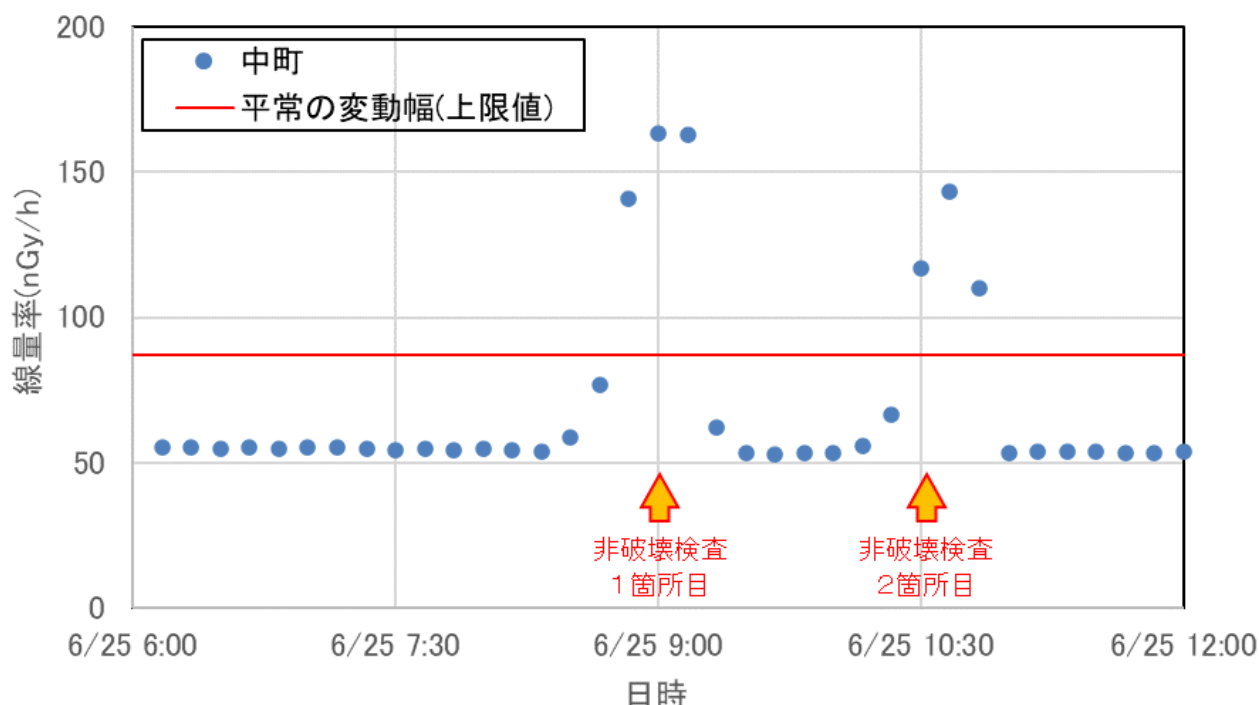


図1 空間放射線量率の推移（10分間平均値）

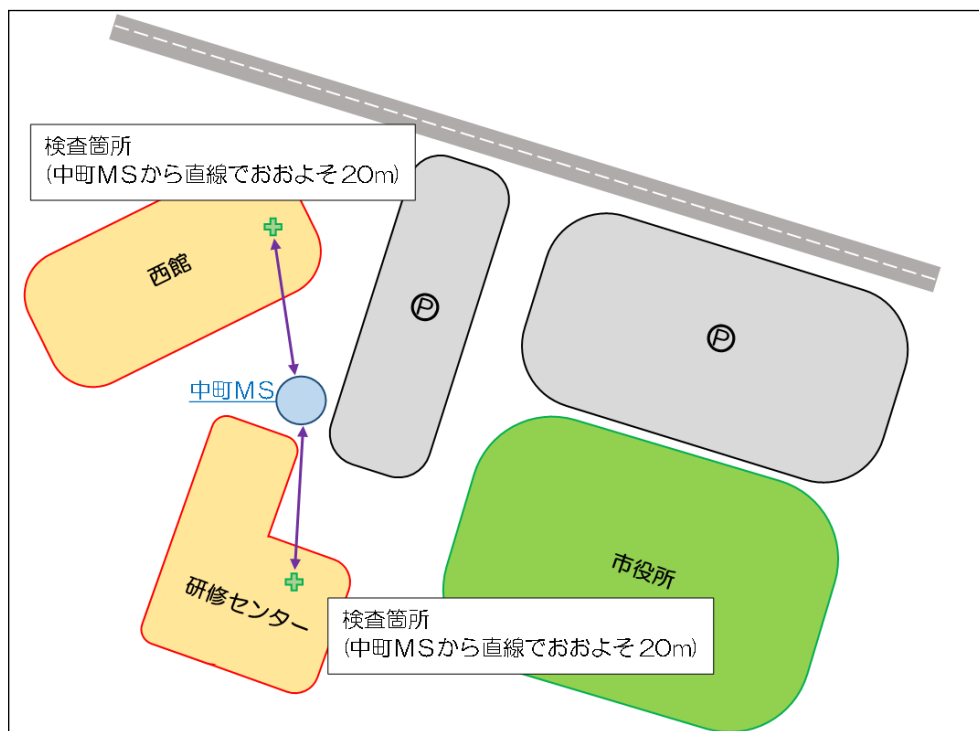


図2 中町MSと非破壊検査箇所との概略図

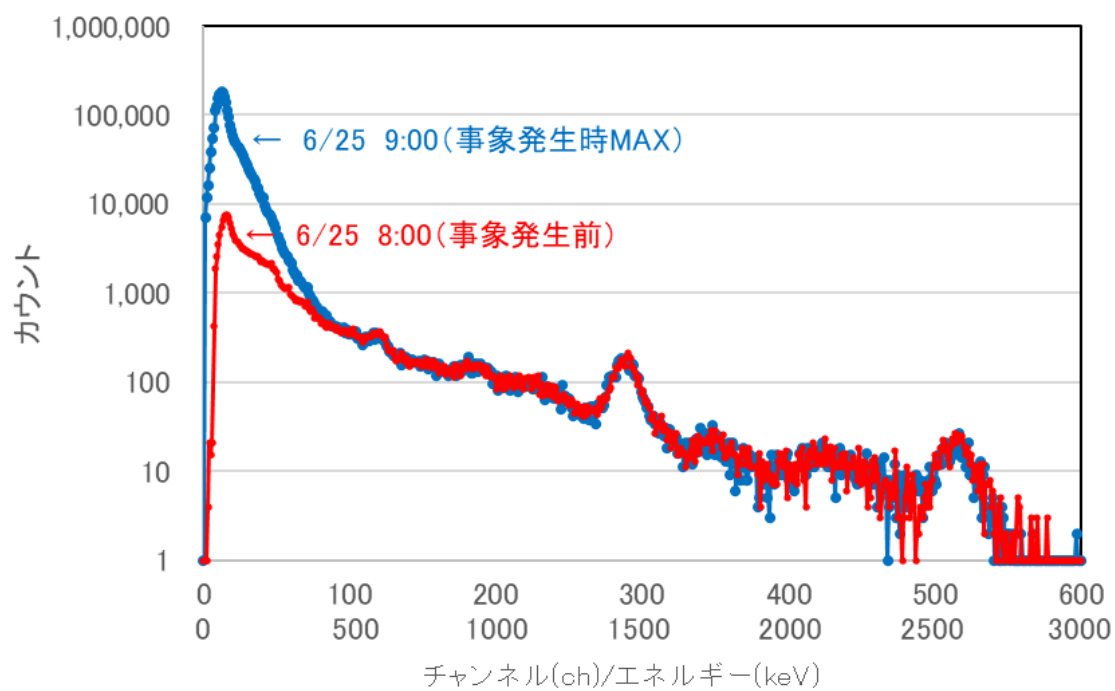


図3 NaI シンチレーション検出器によるスペクトル

以上

3 平常の変動幅の下限逸脱に係る原因調査報告（空間放射線量率）

令和 6 年 10 月 7 日にモニタリングステーション佐倉三区局（以下「佐倉三区 MS」という）において 1 時間平均値が平常の変動幅の下限を下回ったため、原因について調査した。

調査の結果、平常の変動幅の下限を下回った原因は、空間放射線量率が数日前の大雨により平常の変動幅の下限を推移していたところに車両による自然放射線の遮蔽が加わったものと推定した。

1 測定結果

表 1 及び図 1 に佐倉三区 MS の空間放射線量率を示す。当日は 37～38nGy/h 付近の値を推移した後、20 時の線量率が低下し、平常の変動幅の下限値を逸脱した。

なお、表 2 のとおり、10 分間平均値については平常の変動幅の範囲内で推移した。

表 1 空間放射線量率（1 時間値） 単位（nGy/h）

測定地点	日時	測定最小値	平常の変動幅
佐倉三区	10 月 7 日 20 時	36(36.4)	37 ～ 83

表 2 空間放射線量率（10 分値） 単位（nGy/h）

測定地点	日時	測定最小値	平常の変動幅
佐倉三区	10 月 7 日 19 時 10 分～20 時 00 分	36(36.1)	36 ～ 88

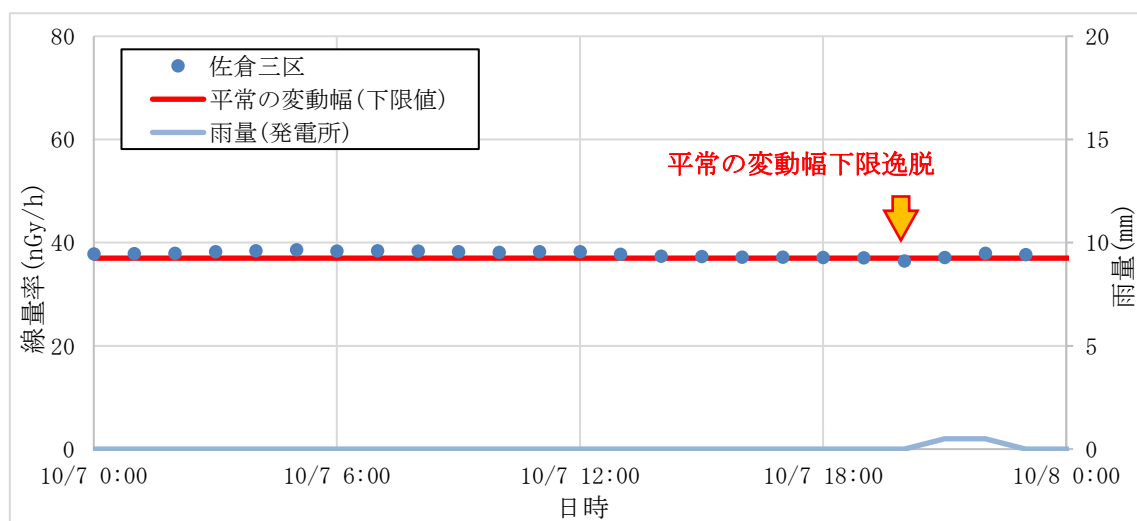


図 1 佐倉三区 MS の空間放射線量率の推移（1 時間値）

2 原因調査

(1) 車両等の遮蔽物の存在

平常の変動幅の下限を逸脱した時刻を監視カメラにて確認したところ、佐倉三区 MS 近傍にて駐車車両が多数あることを確認した。佐倉三区 MS は佐倉三区防災センターに設置されており、集会が開催されていたものとする。

平常の変動幅の下限を逸脱した時間の線量率（10 分間平均値）の時系列変化を図 2 に示す。

車両の存在を確認した 19 時に線量率が 0.5nGy/h 程度低下しており、車両が居なくなった 21 時頃に線量率が戻っていた。また、当該時刻のその他 MS について確認したところ、線量率の低下は見られなかった。

以上のことから、車両により、地中の自然放射線が遮蔽され、線量率が低下したと推測される。

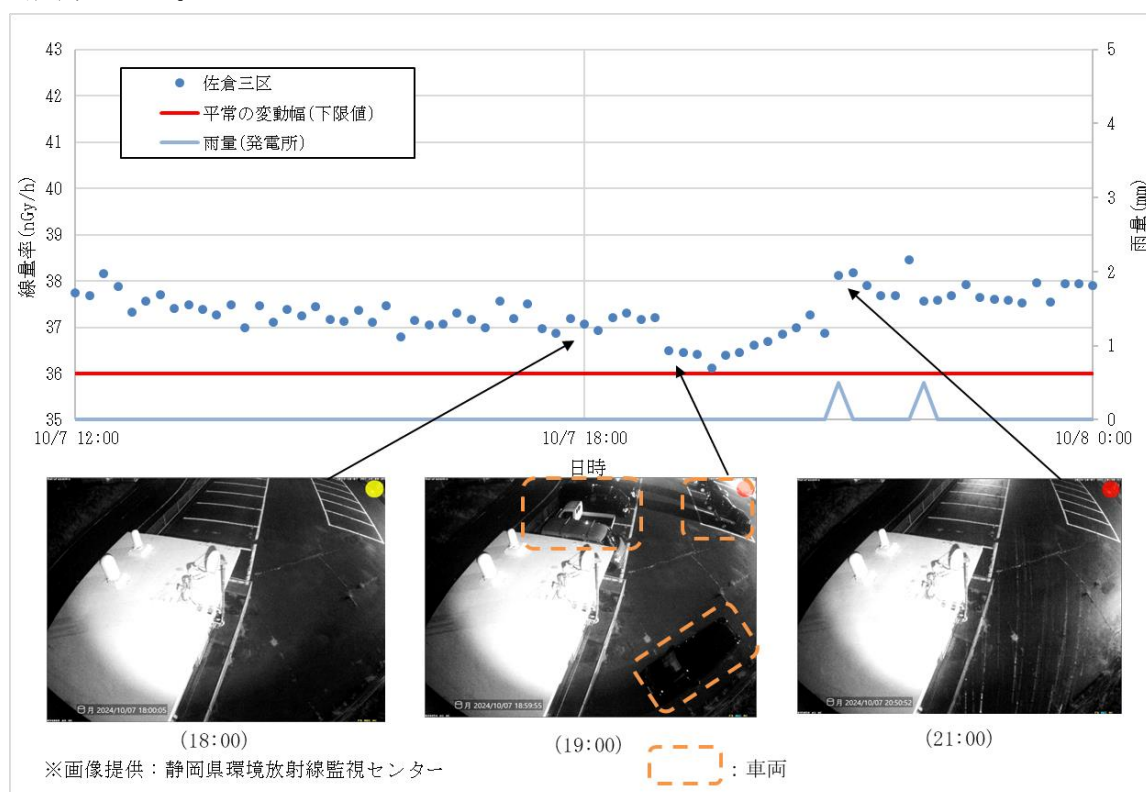


図 2 佐倉三区 MS の空間放射線量率の時系列変化（10 分値）

(2) 測定器等の健全性

当該事象発生時の測定値について、現場の記録計の指示値とテレメータシステムで収集したデータとの間に相違がないことを確認した。

3 まとめ

佐倉三区 MS において空間放射線量率が平常の変動幅の下限を下回った原因は、空間放射線量率が平常の変動幅の下限を推移していたところに車両による自然放射線の遮蔽が加わったものと推定した。

(参考)

事象の検証

当該事象について、車両による自然放射線の遮蔽の影響を確認するため、12月10日10時40分から16時40分まで佐倉三区 MS 近傍に3台車を配置し検証した。検証の状況を図3に示す。

線量率は検証開始から緩やかに2 nGy/h 程度低下したが、当該時刻のその他 MS も同様の挙動を示しており、車両の有無に関わらず線量率は変動していた。10月7日の車両による影響は0.5 nGy/h であり、検証を実施した12月10日の自然放射線の変動が2 nGy/h 程度あったことから車両による遮蔽の影響が小さくなり見えなかったと考える。

地表面からの自然放射線は、線量率計近傍の車両による遮蔽の影響に加え、地表面の水（水たまり等）や土壌中の水分による遮蔽の影響を受けるため、大雨の場合は数日程度、線量率が低下することがある。大気中の自然放射性物質濃度は日変動も生じるため、今後検証を行う際は、それらを考慮する。

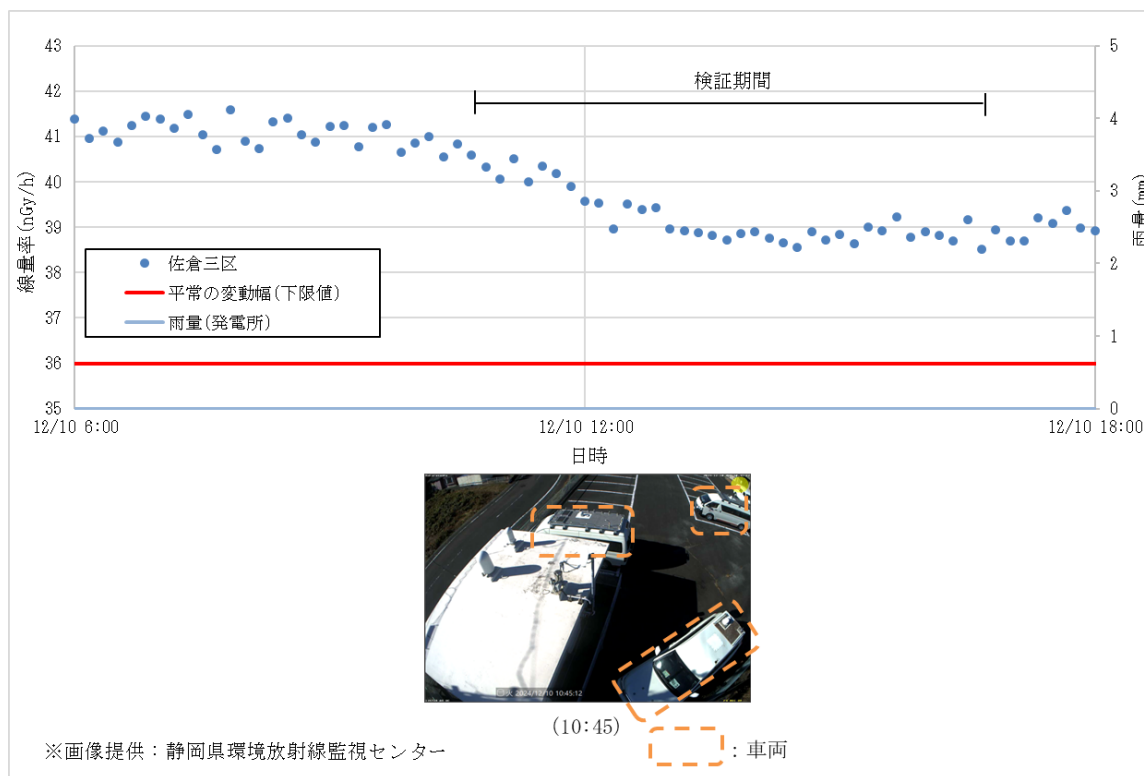


図3 検証時の佐倉三区 MS の空間放射線量率の時系列変化（10 分値）

以上

令和 7 年 3 月 5 日
中部電力株式会社
浜岡原子力発電所

4 佐倉三区モニタリングステーション空間放射線量率計故障に係る報告

令和 6 年 11 月 11 日に発生した佐倉三区モニタリングステーション（以下「佐倉三区 MS」）の空間放射線量率計故障の状況について報告する。また、故障により空間放射線量率を測定できなかった期間について、局舎の敷地内に可搬型モニタリングポスト（以下「可搬型 MP」という）を設置し、連続測定を行った。

1 事象概要

11 月 11 日 13 時 50 分以降、佐倉三区 MS の線量率の測定値がテレメータより伝送されていないことを確認したため、現場にて測定装置を確認した。確認した結果、測定装置に異常は見受けられなかったため、測定装置を停止させ再起動したところ、正常な測定値を示さない状態となった。以上のことから、空間放射線量率計故障と判断し可搬型 MP を設置して代替測定を実施した。

2 原因調査

佐倉三区 MS の線量率が正常な測定値を示さなかったため、測定装置内部の状態を確認したところ、内部パラメータが従来の設定値から替わっていることを確認した。11 月 15 日に測定装置内部パラメータの設定を元に戻し、11 月 18 日に線量率計の線源校正を行い、測定を再開した。線量率が正常な測定値を示さなかった原因は、測定装置の停止・起動が起因となって測定装置内部パラメータの一部が初期化されたことによるものと推定する。検証のため測定装置を数回、停止・起動させたが再現しなかった。また、これまでに空間放射線量率計は、年 2 回保守点検を行っており、点検に伴い測定装置を停止・起動しているが、他のモニタリングステーション含めて同様な事象は発生していない。

3 測定装置の健全性

11 月 18 日に保守点検を実施し、点検結果に異常は見られなかった。線源校正時の相対基準誤差（既知の線源に対する指示値の差）は、判定基準の範囲内であり、測定再開後の測定値に問題ないと判断した。

4 代替測定結果

11月11日から11月18日までに実施した可搬型MP（アロカ株製：MAR-1561BR18）による代替測定結果を図1に示す。測定結果について有意な変動はなかった。また、前日分の最大値および最小値は、当社ホームページでお知らせした。佐倉三区MSと可搬型MPによる空間放射線量率の測定値の差異について、検出器は同様のNaIシンチレーションを用いているものの、図2に示すように、可搬型MPは地表面に設置し地上約1mの位置で測定（佐倉三区MSは地上約3mの位置）をしているため、周辺環境の自然放射線の影響と考える。

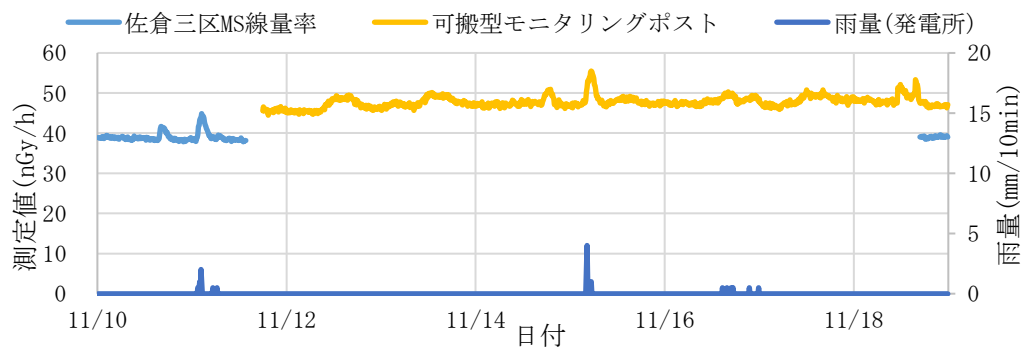


図1 代替測定による測定値の推移（10分間平均値）[佐倉三区]

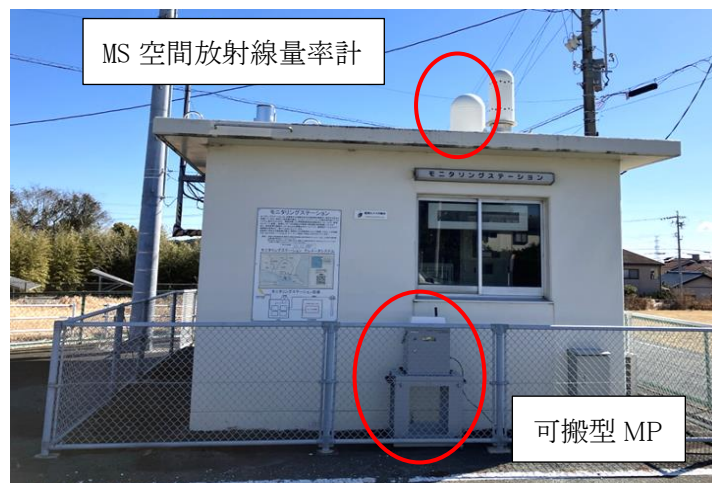


図2 MSと可搬型MPの位置関係（佐倉三区局）

5 まとめ

佐倉三区MSの空間放射線量率計故障については、測定装置の停止・起動が起因となって測定装置内部パラメータの一部が初期化されたことによるものと推定しており、検証のため測定装置を数回、停止・起動させたが再現しなかった。また、これまでに他のモニタリングステーション含めて同様な事象は発生していない。再現性がなく原因究明できなかったため、同様な事象が発生した場合は、可搬型MPにて代替測定を行うとともに、装置の健全性を確認する。

以上

5-1 平常の変動幅の上限逸脱に係る原因調査報告（環境試料中の放射能）

令和 6 年度第 1 四半期分の発電所周辺環境放射能調査において、「土壌」及び「大気中浮遊塵」の 2 試料でセシウム 137 が平常の変動幅の上限を超過した。

原因調査の結果、平常の変動幅の上限を超過した原因は浜岡原子力発電所ではなく、過去の核爆発実験や東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故等で放出された放射性物質の影響と推定した。

1 測定結果

対象となった 2 試料の γ 線核種分析結果を表 1 及び表 2 に示す。上限を超過した測定値は二重下線で示した。

表 1 土壌

単位：Bq/kg 乾土

採取地点	採取日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	^{40}K (参考)
御前崎市 下朝比奈	6/6	監視 センター	* ¹⁾ (0.80) ²⁾	* (0.73)	5.2±0.3 (1.0)	540±10 (31)
		中部 電力㈱	* (0.76)	* (0.74)	4.0±0.3 (1.0)	560±10 (31)
御前崎市 新神子	6/6	監視 センター	* (0.75)	* (0.64)	4.1±0.3 (0.90)	498±10 (29)
		中部 電力㈱	* (0.67)	* (0.64)	3.4±0.3 (0.82)	505±9 (26)
御前崎市 比 木	6/6	監視 センター	* (0.92)	* (0.91)	1.2±0.2 (0.56)	710±10 (35)
		中部 電力㈱	* (0.80)	* (0.75)	1.7±0.3 (0.84)	700±10 (35)
牧之原市 笠 名	6/5	監視 センター	* (0.87)	* (0.84)	<u>9.0±0.4</u> (1.3)	640±10 (34)
		中部 電力㈱	* (0.85)	* (0.76)	<u>10.5±0.5</u> (1.4)	730±10 (38)
平常の変動幅			*	*	1.7～8.9	自然放射性核種
震災後の変動幅			*	*～21.6	*～28.4	

注 1) 「*」は「検出されず」を示す。

注 2) () は検出下限値を示す。

表 2 大気中浮遊塵

単位：mBq/m³

採取地点	採取期間	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
御前崎市 白 砂	6/3～6/30	監視 センター	* ¹⁾ (0.011) ²⁾	*	*	3.03±0.08 (0.23)
御前崎市 中 町	6/3～6/30	中部 電力㈱	*	*	*	2.14±0.06 (0.17)
御前崎市 平 場	6/3～6/30	監視 センター	*	*	<u>0.018±0.004</u> (0.011)	3.22±0.08 (0.25)
御前崎市 白羽小学校	6/3～6/30	中部 電力㈱	*	*	*	2.52±0.06 (0.18)
牧之原市 地頭方小学校	6/3～6/30	中部 電力㈱	*	*	*	2.68±0.07 (0.22)
平常の変動幅			*	*	*	自然放射性 核種
震災後の変動幅			*	*～7.78	*～8.21	

注 1) *印は「検出されず」を示す。

注 2) () は検出下限値を示す。

2 原因調査

- (1) 発電所内エリアモニタリング設備等の異常値及び発電所外への放出の状況
 発電所内のエリアモニタリング設備等に異常は認められず、発電所外への放出管理も適切に行われていることを確認した。このことから、発電所からの影響ではないと考えられる。

- (2) 試料採取方法及び前処理法の妥当性

ア 試料の採取方法の妥当性

- (ア) 土壌について、静岡県及び中部電力の両測定機関における試料の採取方法に問題はなかったことを確認した。
- (イ) 大気中浮遊塵について、技術会で定められた方法により、月初めに採取した。具体的には、ダストサンプラー(図 1)で大気中の浮遊塵を吸引し、長尺ろ紙上に捕集している。そのダストサンプラー内部のろ紙の紙送り部分に土が付着していた(図 2)。また、紙送り部分の下側には土が溜まっていた。このことから、ダスト吸引口からセシウム 137 を含む土ばかりを吸引し、ろ紙に捕集したと考えられた。

イ 前処理方法の妥当性

- (ア) 土壌について、静岡県及び中部電力の両測定機関において、試料の前処理方法に問題はなかったことを確認した。
- (イ) 大気中浮遊塵について、技術会に定められた方法により前処理を行った。まず、人為的なミスによる他試料の混入を疑ったが、同時期に前処理を行った試料は大気中浮遊塵(白砂局)のみであり、こちらについてはセシウム 137 が検出されていないことから、人為的なミスの可能性は低い。また、灰化作業について、大気中浮遊塵のろ紙の灰化前に、灰化炉の清掃を行っていることから、灰化炉での汚染の可能性は低い。このことから他試料混入による影響は低いと評価した。

(3) 採取地点周辺の環境の変化

- ア 土壌について、採取地点周辺の環境の変化は認められなかった。
- イ 大気中浮遊塵について、隣接の施設において、日常的に土砂の搬出入が行われているが、当該期間中の局舎設置の監視カメラ映像を確認したところ、局舎周辺に特段の変化は認められなかった。

(4) 測定結果の経時的変化

- ア 土壌について、測定結果の経時的変化を示した(図3)。試料中の放射性セシウム濃度は東電事故直後に上昇し、その後低減したが近年も検出されており、今回の結果は特異的なものではないことを確認した。
- イ 大気中浮遊塵について、直近では白砂局令和4年5月分において、採取地点近傍の工事により、セシウム137を含む土砂が飛散したことによるものと考えられるセシウム137が検出された事例があった(表3)。

表3 参考 大気中浮遊塵(白砂局令和4年5月分) 単位：mBq/m³

採取地点	採取期間	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁴⁰ K(参考)
御前崎市 白砂	令和4年5月2日 ～令和4年6月30日	<u>0.023</u> ±0.003 (0.0086)	6.95±0.11 (0.34)	1.06±0.07 (0.22)

(5) その他

大気中浮遊塵の集塵中全α放射能・全β放射能比及び全β放射能について、過去1年間の測定結果と比較したところ、当該期間中の値は特異的なものではないことを確認した(表4)。

表4 参考 集塵中の全α・全β放射能比及び全β放射能

測定地点	測定期間	集塵中全α放射能・全β放射能比 (単位：-)		集塵中の全β放射能 (単位：Bq/m ³)	
		平均値	最大値	最小値	最大値
御前崎市 平場	月				
	令和5年4月	3.8	4.5	*	7.9
	5月	3.8	4.6	*	8.6
	6月	3.8	4.5	*	7.2
	7月	4.0	5.1	*	6.8
	8月	3.8	4.8	*	4.3
	9月	3.5	4.1	*	5.6
	10月	3.5	4.2	0.42	6.3
	11月	3.4	4.0	*	7.5
	12月	3.5	4.2	0.51	11
	令和6年1月	3.6	4.1	0.50	7.8
	2月	3.5	4.3	0.29	10.0
	3月	3.2	3.6	0.26	5.3
	4月	3.3	3.8	*	5.6
	5月	3.2	3.8	*	8.4
	6月	3.3	3.7	*	5.6

3 調査結果及び評価結果

調査の結果、今回の上限超過の原因は浜岡原子力発電所ではなく、過去の核爆発実験や東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故等で放出された放射性物質の影響と推定した。



図1 ダストサンプラー



図2 ダストサンプラーろ紙送り部分

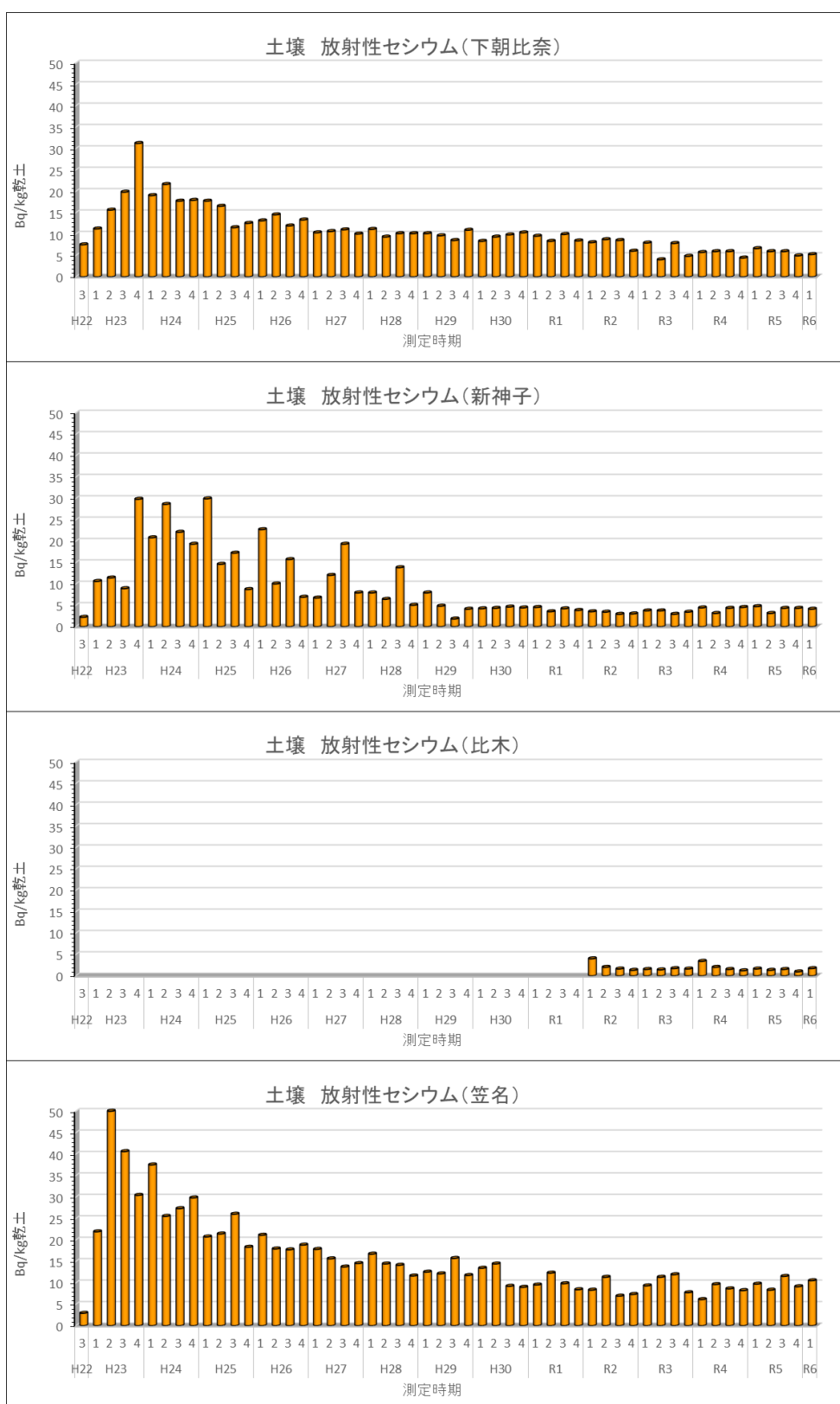


図3 土壌中の放射性セシウム濃度 (Cs-134 と Cs-137 の合計量) の経時的変化
 注) 測定機関 2 者のうち、放射性セシウム濃度が高い値を採用している。

5-2 平常の変動幅の上限逸脱に係る原因調査報告（環境試料中の放射能）

令和 6 年度第 2 四半期分の発電所周辺環境放射能調査において、「原乳」、「かんしょ」及び「大気中浮遊塵」の 3 試料でセシウム 137 が平常の変動幅の上限を超過した。

原因調査の結果、平常の変動幅の上限を超過した原因は浜岡原子力発電所ではなく、過去の核爆発実験や東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故等で放出された放射性物質の影響と推定した。

1 測定結果

対象となった 3 試料の γ 線核種分析結果を表 1、表 2 及び表 3 に示す。上限を超過した測定値は二重下線で示した。

表 1 原乳

単位：Bq/kg 生（ ^{131}I は Bq/L）

採取地点	採取日	測定機関	^{60}Co	^{131}I	^{134}Cs	^{137}Cs	^{40}K (参考)
掛川市 下土方	7/16	監視 センター	* ¹⁾ (0.018) ²⁾	*	*	*	48.0±0.3 (1.00)
		中部 電力(株)	*	*	*	*	47.2±0.3 (0.95)
菊川市 嶺 田	7/25	監視 センター	*	*	*	<u>0.013</u> ±0.004 (0.012)	43.0±0.3 (1.0)
		中部 電力(株)	*	*	*	<u>0.018</u> ±0.004 (0.013)	43.3±0.3 (0.98)
平常の変動幅			*	*	*	*	自然放射 性核種
震災後の変動幅			*	*～0.14	*～0.43	*～0.45	

注 1) 「*」は「検出されず」を示す。

注 2) () は検出下限値を示す。

表 2 かんしょ

単位：Bq/kg 生

採取地点	採取日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	^{40}K (参考)
御前崎市 新神子	9/22	監視 センター	* ¹⁾ (0.018) ²⁾	*	<u>0.094</u> ±0.005 (0.016)	43.8±0.3 (1.0)
		中部 電力(株)	*	*	0.055±0.005 (0.014)	45.5±0.3 (0.96)
		平常の変動幅			*	*
震災後の変動幅			*	*～0.13	0.019～0.241	自然放射性核種

注 1) 「*」は「検出されず」を示す。

注 2) () は検出下限値を示す。

表 3 大気中浮遊塵

単位：mBq/m³

採取地点	採取期間	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	^{7}Be (参考)
御前崎市 白 砂	9/2～9/30	監視 センター	* ¹⁾ (0.0094) ²⁾	*	*	2.55±0.07 (0.22)
御前崎市 中 町	9/2～9/30	中部 電力㈱	*	*	*	1.93±0.06 (0.17)
御前崎市 平 場	9/2～9/30	監視 センター	*	*	<u>0.028</u> ±0.003 (0.010)	2.94±0.08 (0.24)
御前崎市 白羽小学校	9/2～9/30	中部 電力㈱	*	*	*	2.16±0.06 (0.18)
牧之原市 地頭方小学校	9/2～9/30	中部 電力㈱	*	*	*	2.21±0.07 (0.20)
平常の変動幅			*	*	*	自然放射性 核種
震災後の変動幅			*	*～7.78	*～8.21	

注 1) 「*」は「検出されず」を示す。

注 2) () は検出下限値を示す。

2 原因調査

- (1) 発電所内エリアモニタリング設備等の異常値及び発電所外への放出の状況
 発電所内のエリアモニタリング設備等に異常は認められず、発電所外への放出管理も適切に行われていることを確認した。このことから、発電所からの影響ではないと考えられる。
- (2) 試料採取方法及び前処理法の妥当性
 - ア 試料の採取方法の妥当性
 - (ア) 原乳及びかんしょについて、静岡県及び中部電力の両測定機関における試料の採取方法に問題はなかったことを確認した。
 - (イ) 大気中浮遊塵について、技術会で定められた方法により、月初めに採取した。令和 6 年度第 2 回技術会報告と同様に、ダストサンプラー内部のろ紙の紙送り部分に土が付着していた(図 1)。また、採取したろ紙にも土が付着していた(図 2)。このことから、ダスト吸引口からセシウム

137 を含む土ぼこりを吸引し、ろ紙に捕集したと考えられた。

イ 前処理方法の妥当性

静岡県及び中部電力の両測定機関において、前処理方法の手順に問題はなかったことを確認した。

(3) 採取地点周辺の環境の変化

ア 原乳及びかんしょについて、採取地点周辺の環境の変化は認められなかった。

イ 大気中浮遊塵について、隣接の施設において、日常的に土砂の搬出入が行われているが、当該期間中の局舎設置の監視カメラ映像を確認したところ、局舎周辺に特段の変化は認められなかった。

(4) 測定結果の経時的変化

ア 原乳及びかんしょについて、測定結果の経時的変化を示した(図 3 及び図 4)。試料中の放射性セシウム濃度は東電事故直後に上昇し、その後低減したが近年も検出されており、今回の結果は特異的なものではないことを確認した。

イ 大気中浮遊塵について、近年では白砂局令和 4 年 5 月分において、採取地点近傍の工事により、セシウム 137 を含む土砂が飛散したことによるものと考えられる事例があった(表 4)。

また、平場局令和 6 年 6 月分において、セシウム 137 を含む土ぼこりを吸引したことによるものと考えられる事例があった。

表 4 参考 大気中浮遊塵

単位：mBq/m³

採取地点	採取期間	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁴⁰ K(参考)
御前崎市 白 砂	令和 4 年 5 月 2 日 ～令和 4 年 6 月 30 日	<u>0.023</u> ±0.003 (0.0086)	6.95±0.11 (0.34)	1.06±0.07 (0.22)
御前崎市 平 場	令和 6 年 6 月 3 日 ～令和 6 年 6 月 30 日	<u>0.018</u> ±0.004 (0.011)	3.22±0.08 (0.25)	1.22±0.07 (0.22)

(5) その他

大気中浮遊塵の集塵中全 α 放射能・全 β 放射能比及び全 β 放射能について、過去 1 年間の測定結果と比較したところ、当該期間中の値は特異的なものではないことを確認した(表 5)。